



個人投資家向け WEBセミナー資料

2025年12月3日
株式会社イーディーピー
東証グロース（証券コード：7794）

EDPグループの概要

➤ LGD（人工ダイヤモンド宝石）の製造に必要な薄い板状のダイヤモンド単結晶を製造し、宝石生産向け種結晶の他、研究用基板、切削工具、放熱材料等の工業材料向けにも販売

事業概要・特徴

- ◆ 気相法でダイヤモンド単結晶を製造
- ◆ 独自の製造技術により大型の板状ダイヤモンドの大量生産を実現
- ◆ ラボグロウンダイヤモンド（人工宝石）の販売へ進出
- ◆ ダイヤモンドデバイスの実用化に欠かせない、大型ウエハを商品化する計画



30x30mmの世界最大級大型ダイヤモンド単結晶

主要製品・活用用途



第二の創業期における再成長イメージ

2025年3月期

2026年3月期

2028年3月期

主要な経営テーマ

- ・人工ダイヤ分野の種結晶拡販と利益体質改善

具体的取組み

- ・SFD India、SFD Antwerp の設立と営業開始準備
- ・原石製造条件の確立、宝石の試作
- ・30mm角単結晶の販売開始、ウエハロードマップの開示

収益戦略

- ・徹底したコスト削減

第2の創業

**種結晶偏重から脱し、宝石ビジネスに参入
ダイヤモンドウエハの市場創生**

● 宝石売上の目標達成

海外子会社の営業を開始し、国内外で売上目標を達成する。

● 大型ウエハの実用化

1インチ単結晶ウエハの商品化
2インチザイズウエハの開発

今後目指す姿

**宝石販売ルートの確立
Japan Made Diamond
のブランド化**

**デバイス開発を支援する
多様なエビ、基板
量子デバイス開発用製品**

- 多様な資金調達により、積極的な設備及び開発投資を実行して、ビジネス体制を整える。

2026年3月期中間期
決算概要

2026年3月期中間期決算サマリー

- SFD Indiaの輸入ライセンス取得が遅れ、種結晶を輸入できず、営業開始は当会計期間中に出来なかった。
- 宝石販売に着手したが、当会計期間においては少額の売上に留まった。
- 徹底した費用削減は行ったが、在庫品評価下げ等で純損失が膨らんだ。

(百万円)

	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	
	実績 【連結】	実績 【連結】	前年同期比 増減額 (増減率)
売上高	436	137	△298 (△68.4%)
営業利益	△546	△507	38 (-)
経常利益	△572	△501	70 (-)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△576	△504	71 (-)

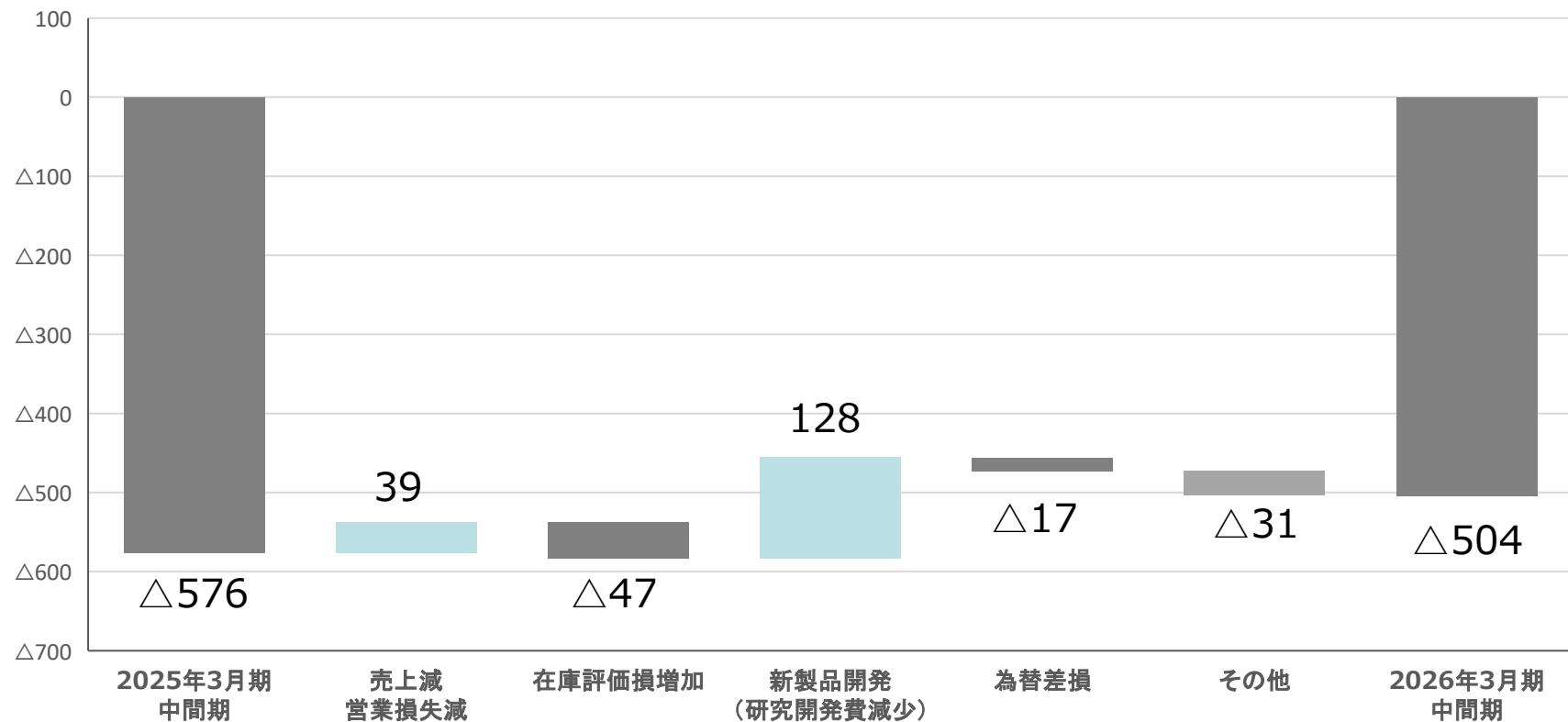
※当社は2025年3月期より連結財務諸表となっております。

注) △は損失を示しています。

利益増減（対前年同期）

- 売上が減少したが、経費を節減し、営業損失は39百万円減少
- 種結晶価格低下や素材等についての評価損の計上により△47百万円
- 新製品開発費用が128百万円前年同期より減少した
- 為替差損等により△17百万円

(百万円)



減益の主な要因

ビジネスモデルの転換に注力

- ・昨年度公表した種結晶偏重のビジネスからの転換は、グループの体制構築が進み、ラボグロウンダイヤモンドの販売を開始した。本格的な営業へ進むため、Japan Made Diamondのブランド化を推進している。

海外現地法人の事業開始遅延

- ・ベルギー法人（SFD Antwerp）は2025年6月に事業を開始
- ・インド法人（SFD India）は、輸入ライセンス取得が遅れ、事業開始が当会計期間には出来なかった。

新しい製品開発は進展

- ・SFDは新規デザインの宝石やカラーダイヤの試作、開発が進展
- ・大型ウエハ開発は、ほぼロードマップ通りに進捗している。

四半期ごとの製品別売上及び損益

- SFD Indiaの販売開始が遅れ、種結晶のインドでの売上は大幅減少
 - 基板・ウエハは各顧客から受注が下期にずれ、売上高は減少
 - 宝石の販売を開始したが、決算期が異なるSFD Antwerpの売上は計上しておらず、SFDも売上が少額であった。
 - 製造コスト削減を進めたが、在庫評価減もあり、大幅な損失を計上
- (百万円)

	2025年3月期【連結】					2026年3月期【連結】		
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	合計
売上高	237	198	217	250	902	32	105	137
種結晶	170	119	119	123	531	10	20	30
基板・ウエハ	57	67	86	119	329	18	79	97
光学部品等	4	1	4	5	14	0	3	4
工具素材	5	10	7	4	26	2	2	4
宝石	—	—	—	—	—	0	0	0
営業利益	△174	△372	△194	△235	△976	△263	△243	△507
経常利益	△158	△414	△149	△267	△989	△275	△226	△501
当期純利益	△162	△413	△149	△1,581	△2,306	△276	△228	△504

注) △は損失を示しています。

※当社は2025年3月期より連結財務諸表となっています。

貸借対照表

(百万円)

	2025.3期 【連結】	2026.3期 中間期 【連結】	増減	主な増減要因
流動資産	2,721	2,198	△523	現金及び預金△693 商品及び製品+248
固定資産	1,655	1,710	55	機械及び装置+47 投資その他資産△30
総資産	4,377	3,909	△468	
流動負債	354	347	△6	未払金+21 株主優待引当金△18
固定負債	604	539	△65	長期借入金△73
負債合計	958	887	△71	
純資産合計	3,418	3,022	△396	資本金+54 資本剰余金+54 利益剰余金△504
負債・純資産合計	4,377	3,909	△468	
自己資本比率	78.1%	77.30%	△0.79	

宝石の販売に向けた開発に注力

- SFDは2025年1月に宝石の販売を開始しました。
- ダイヤモンドでは代表的なブリリアントカットの販売を開始し、新しいデザインも製作を進めている。
- Japan Made Diamondの商品化に向けて、準備を進めています。



EDPの原石を生かした
新しいデザインの宝石

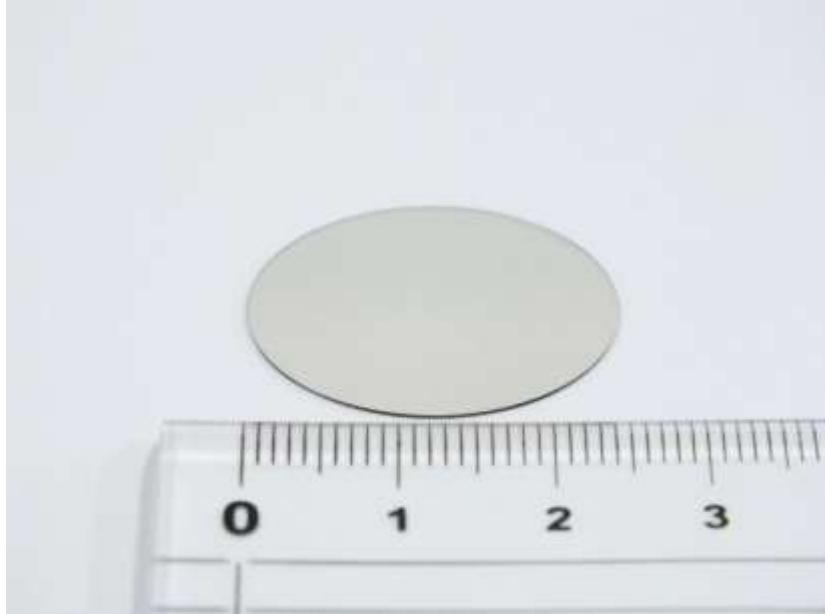


ブルー4色+ピンクの
カラーダイヤ

大型単結晶ウエハの商品化、開発が進捗

- 1インチウエハの開発に成功し、2025年4月に発売
- 2~4インチウエハの開発ロードマップに沿って、モザイクウエハ開発が進捗

2025年4月、1インチ単結晶ウエハを発売



ダイヤモンド1インチ単結晶ウエハ

- 開発した世界最大級の30mm角単結晶を使い、1インチウエハ（直径25mm）を製品化
- 30mm角の結晶を4個接続し、50x50mm以上のモザイク結晶の開発が進行中。完成すれば、それによって2インチ（直径50mm）ウエハが製作できる。

EDPグループの成長戦略

- ダイヤモンド単結晶を応用した多種類の製品で、ビジネス領域の拡大を目指す
- 人工宝石分野、基板・ウエハ分野の開発投資を目的に資金調達を実施

成長戦略の基本的なスタンス

		当グループの成長戦略 ～種結晶偏重ビジネスからの脱却～	
方針	人工ダイヤモンド宝石分野	基板・ウエハ分野	
戦略	◆ 高品質原石の量産技術確立 ◆ 新規デザイン、カラーダイヤの宝石開発 ◆ Japan Made Diamondのブランド化 ◆ EDPグループとしての総合力を發揮する	◆ 1~4インチウエハの開発ロードマップにより、ダイヤモンドデバイス開発を促進 ◆ 開発製品ごとの必要素材を販売 ◆ ダイヤモンドウエハの規格化を推進	
今期取組	● 新規デザイン宝石の量産方法の確立 ● SFD Indiaにより種結晶の現地販売 ● SFD欧州子会社を稼働させ、宝石の欧米への販売を開始	● 1インチウエハの量産確立と販売 ● 2インチウエハ開発と市場の反応確認 ● ウエハ大型化に必要な周辺技術開発 ● 多様な量子デバイス用基板の製品化	

2026年3月期

通期業績予想の修正

2026年3月期通期業績予想の修正

- 期初の売上高予想は1,861百万円でしたが、SFD Indiaの営業開始の遅延により種結晶販売が低迷し、宝石等の新規ビジネス展開を見通すことが困難な状況のため、業績予想を「未定」に修正

(百万円)

	2026年3月期	2025年3月期	
	修正予想 【連結】	前回予想 【連結】	実績 【連結】
売上高	—	1,861	902
営業利益	—	△77	△976
経常利益	—	△89	△989
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	△128	△2,306

注) △は損失を表しております。

EDPグループが進む方向

ラボグロウン（人工）ダイヤモンドとは

- 約10年前からラボグロウンダイヤモンドは広く販売され、現在ではダイヤモンド宝石市場の25%以上が人工に置き換わり、宝飾店やネットで流通

人工ダイヤモンドの特長

- 天然ダイヤモンドと比較して、安定した品質で高純度、大型品が製作できる
- 天然ダイヤモンドより安価で、大型やグレードの高い宝石へ移行できる
- 環境負荷が低く、SDGsの観点で優位
- 従来の形態にとらわれない新しいデザイン可能

LGD完成までの流れ

① モザイク結晶素材



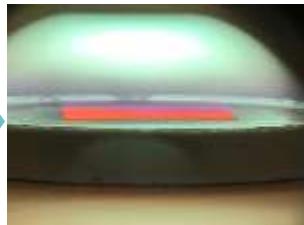
24x24mmの
モザイク結晶

② 各種サイズの種結晶



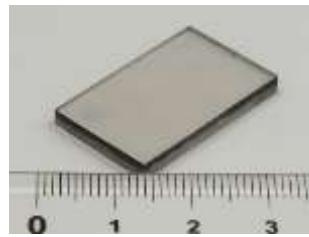
8~15mm口

③ 気相成長中



マイクロ波
プラズマCVD

④ 成長した原石



原石厚さ3mm以上

⑤ 完成したLGD



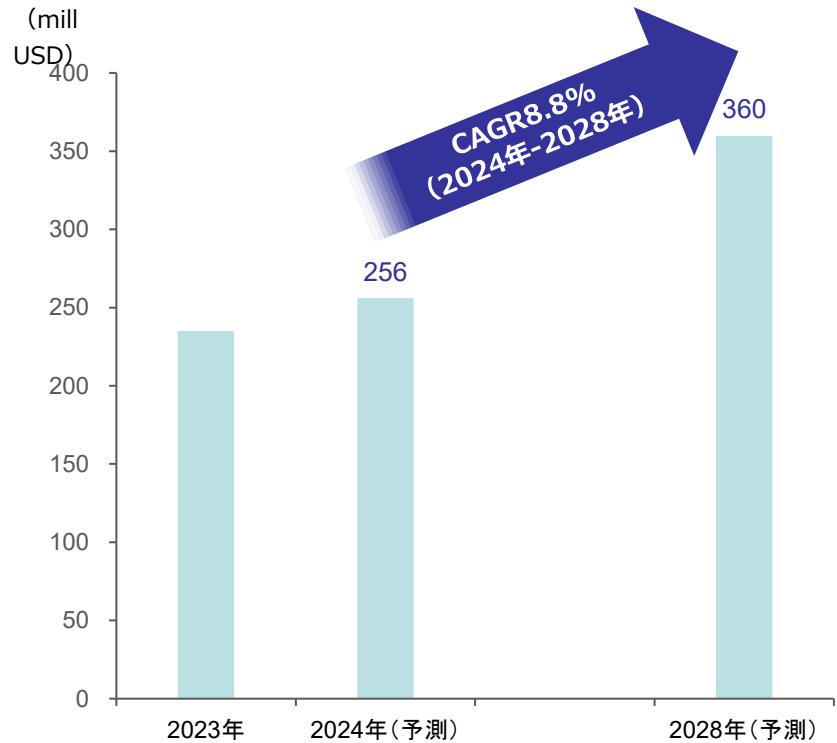
ブリリアントカット
の宝石

消費者の需要増により人工宝石市場は急速に拡大する

- LGD（人工ダイヤ宝石）は大きなシェアを獲得済みで、急速に市場拡大が進む
- 欧米ではLGDのSDGsにおける優位点を意識する消費者が増加

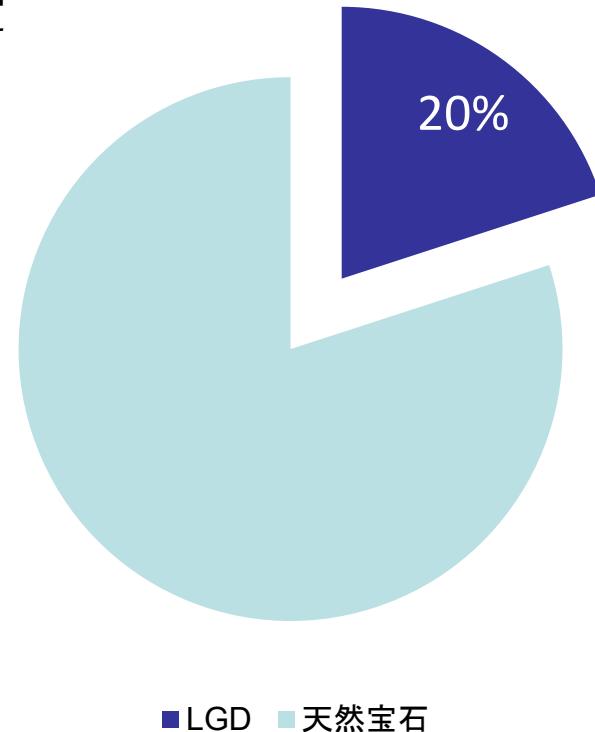
LGD市場の推移

- ◆ LGD市場は2024年から2028年まで CAGR8.8%で急速に拡大する見通し



LGD流通量比率

- ◆ LGDはダイヤモンド宝石市場における流通量の20%以上にも達しているとの推定



出所 : Lab Grown Diamonds Global Market Report 2024

LGDビジネス分野の外部環境

◆ 業界は拡大しているが、新陳代謝が加速している

人工ダイヤ宝石の販売量は依然として早いスピードで拡大している。採算性の悪化から、一部企業の倒産が発生や生産停止が出ている。

◆ 製品の価格低下は次第に鈍化

価格の低下は進んでいるものの、低下のペースは鈍化している。
大型品の価格は大きく下がってはいない。

◆ 人工であるが故に、多様化が始まっている

カラーダイヤや大型品など、これまでにない宝石が出ている。

◆ 種結晶市場は縮小しているが、SFD Indiaがユーザーを開拓する

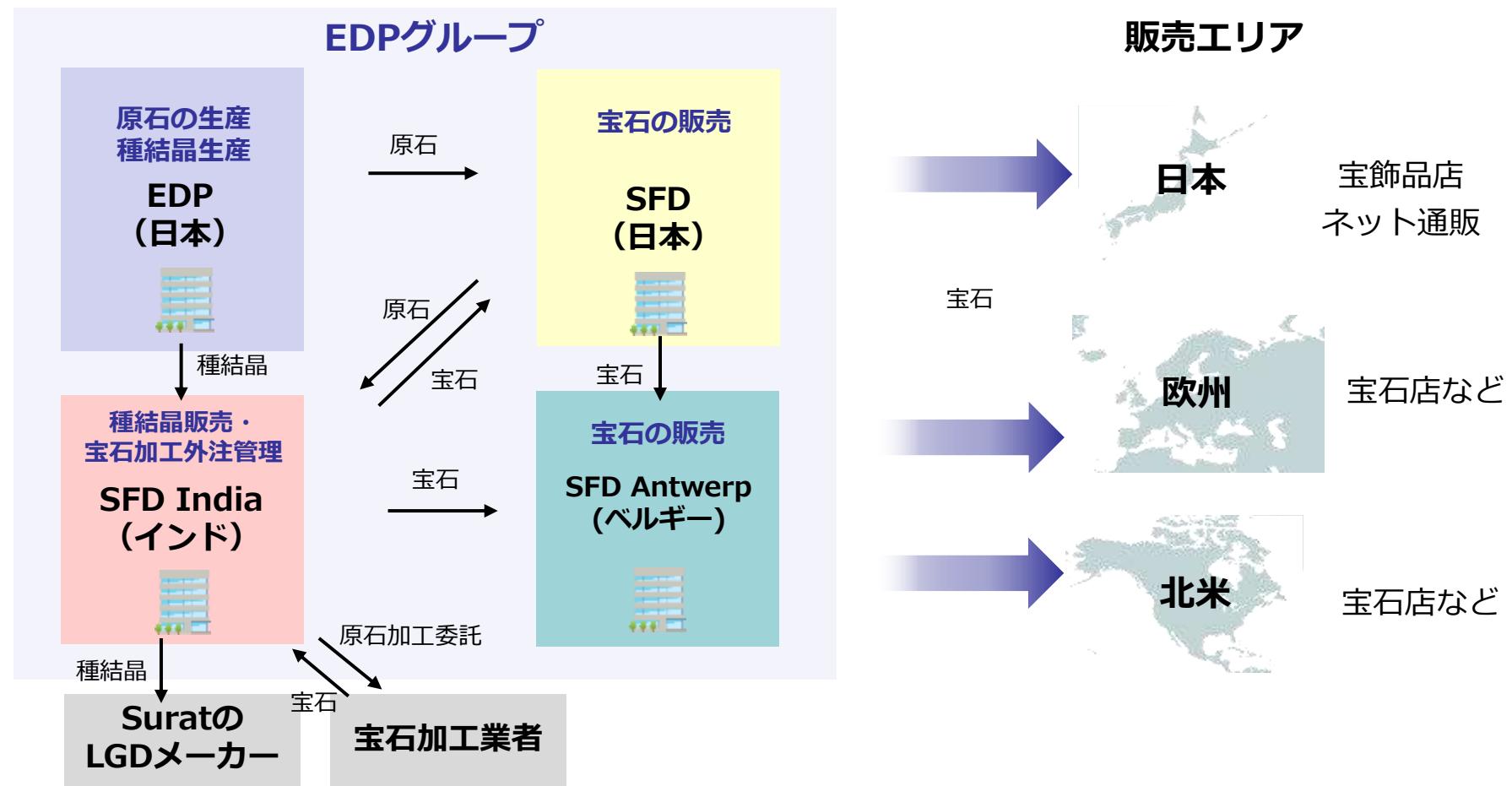
LGD企業の自家用生産種結晶が拡大しているが、高品質な当社種結晶は根強い需要

◆ 天然ダイヤビジネスはLGDの台頭で困難な状況

SDGs等の観点から欧米では天然ダイヤ需要が減少し、一部の加工業者がレイオフ等を行っている

LGD分野ビジネスの多角化への取り組み

- 既にSFD Antwerpを通じて、世界的な通販サイトでの販売を開始した。
- SFD Indiaは新しいデザインやカラーの宝石を開発し、販売に備えた。
- Japan Made Diamondの商品化を目指し、各工程の準備を開始



人工ダイヤ宝石分野でのビジネスの進め方

- * 大型単結晶を保有しており、これを種結晶として利用した大型の原石生産が可能。これによって、新しいデザインの自由度が大きく、斬新な宝飾品が可能
- * 既に試作済みの新規カットが、大手宝飾品企業で評価されており、これ等を販売することで、従来の宝石とは異なった切り口の商品展開が出来る。

- ☆ 宝飾品企業との提携による新商品開発
- ☆ 当社の大型結晶を生かす新規デザイン開発
- ☆ EDPの多様な技術を使った新たなコンセプト作り
- ☆ Japan Made Diamondの実用化で、強力なブランド作りを進める

基板・ウエハビジネスの外部環境

◆ パワーデバイス、量子デバイスの実用化に向けた動き

- ・EVやHEVでの利用が期待されるパワーデバイスで、大電流デバイス開発の報告もあり、開発が急速に進展
- ・弱磁場を検出する量子センサーで、心磁場や脳磁場等の検出システムへ適用が期待出来る報告が出てきた。

◆ 世界各地のベンチャー企業の活動

- ・パワーデバイス、放射線センサー、量子コンピューター、量子センサー等、開発中のデバイスが多様化
- ・日米欧豪のダイヤモンドデバイスのベンチャーが資金調達を発表

◆ 政府および公的支援

- ・各国政府等によるダイヤモンドデバイス開発プロジェクトが立ち上がり、企業や大学、公的研究所に相当な資金が投下された。

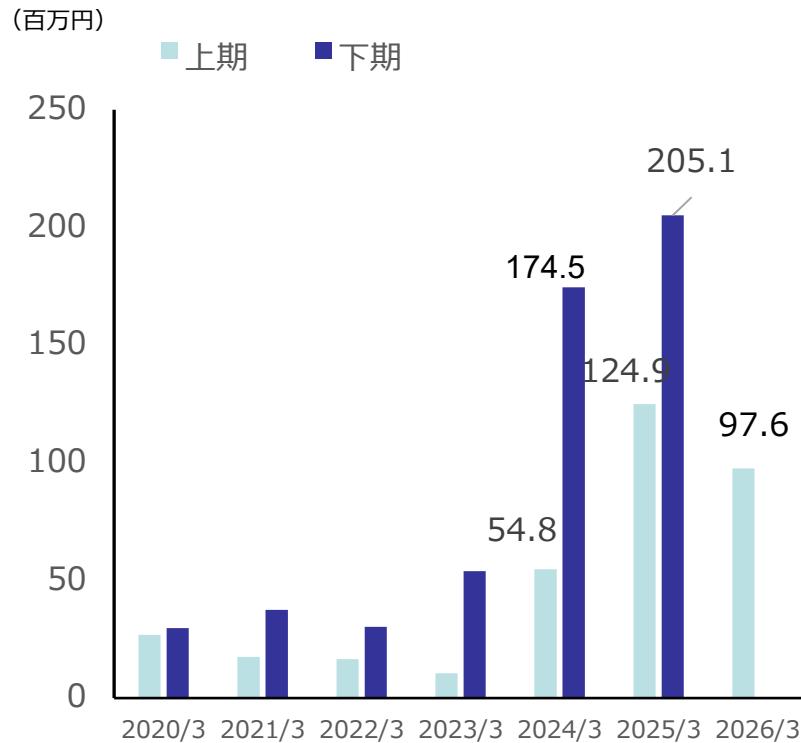
◆ 新しい応用へ向けてのダイヤモンド素材へ多様な要求

- ・量子センサーや放射線センサー等の応用の多様化により、ダイヤモンド素材への要求が多様化し、各種の開発を強化
- ・既にデバイス量産化への要求も出ており、究極の熱伝導率を利用したヒートシンクの応用にも、大型ウエハへの期待が高まっている。

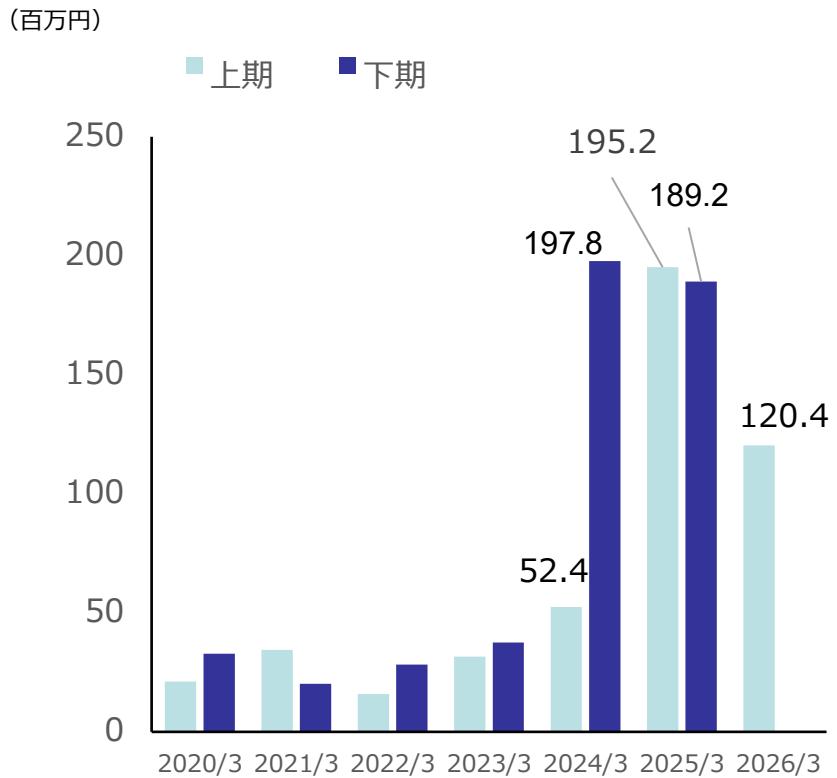
当社の基板・ウエハビジネスの状況

- 本年度は昨年度に比べ各ユーザーの発注の出足が遅く、前年度同期に比べ売上、受注共に減少したが、一昨年よりは2倍以上の受注を得ている。
- 下期は受注、売上が増加するが、本年度はユーザーがプロジェクト等で確保した資金が多いので、順調に売り上げられると考えております。

基板・ウエハの半期売上高推移



基板・ウエハの半期受注推移



デバイス製作用ウエハ開発での当社の位置づけ

- * 世界最大の単結晶を開発し、30x30mm基板や1インチウエハを製品化済み。さらに38x38mmの大型のモザイク結晶も製品化。大型ダイヤモンド素材のメーカーとしての評価が定着している。
- * パワーデバイスから量子デバイスまで、ダイヤモンドデバイス開発で要求される様々な仕様の基板や各種のエピ成長層を商品化している。
- * 2インチウエハ～4インチウエハの開発に向けたロードマップを提示し、ユーザーはその進捗に期待
- * 将来のウエハ規格化を検討しており、広く利用できる環境を整えるために、業界団体などと協力する。

ダイヤモンドデバイス開発に向けたウエハ、基板

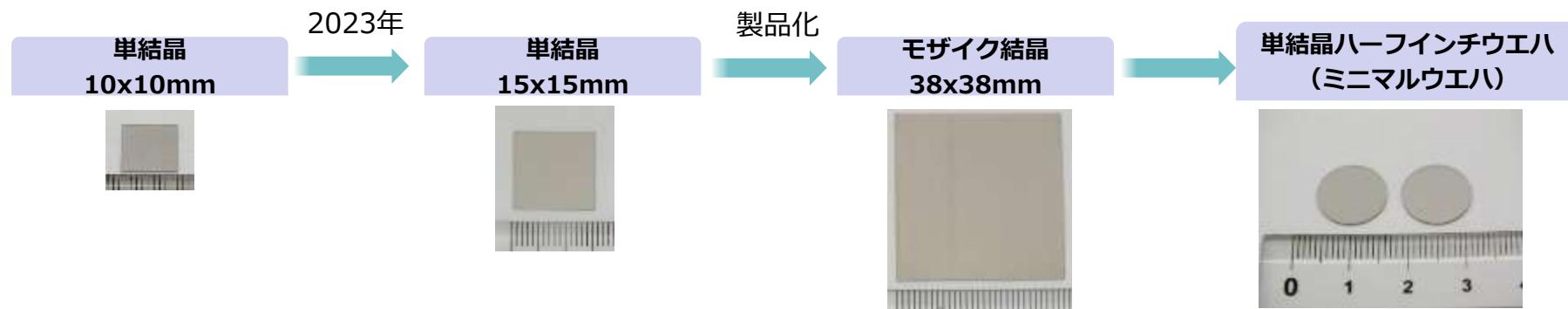
多様な応用展開に向け、各種の基板・ウエハ・エピ層を商品化

開発分野	製品名	内 容
基礎研究用基板	小型単結晶基板	3x3~9x9mm基板
	大型単結晶基板	10x10~30x30mm単結晶
	オフ角基板	基準面から0~5° した傾斜基板
横型デバイス用基板	高品質基板	低FWHMの欠陥が少ない基板
	低B濃度エピ基板	高移動度p⁻エピ層付き基板
パワーデバイス用基板	低抵抗基板	高B濃度p⁺自立基板 (<13x13mm)
	高B濃度エピ基板	高B濃度p⁺エピ層付き基板 (<18x18mm)
量子デバイス用基板	(111)基板	窒素濃度<8ppm
	低N濃度(111)基板	窒素濃度<0.5ppm
	高N濃度基板	窒素濃度10~20ppm
各種エピ層	p⁻/p⁺	低Bエピ層/高Bドープ基板
	i層/Nドープ基板	ノンドープエピ層/Nドープ基板
量産テスト用ウエハ	ハーフインチウエハ	12.5mm Φ x0.25mm
	1インチウエハ	25mm Φ x0.3mm (近日中商品化)
	モザイク基板	38x38mm以下の正方形もしくは丸形

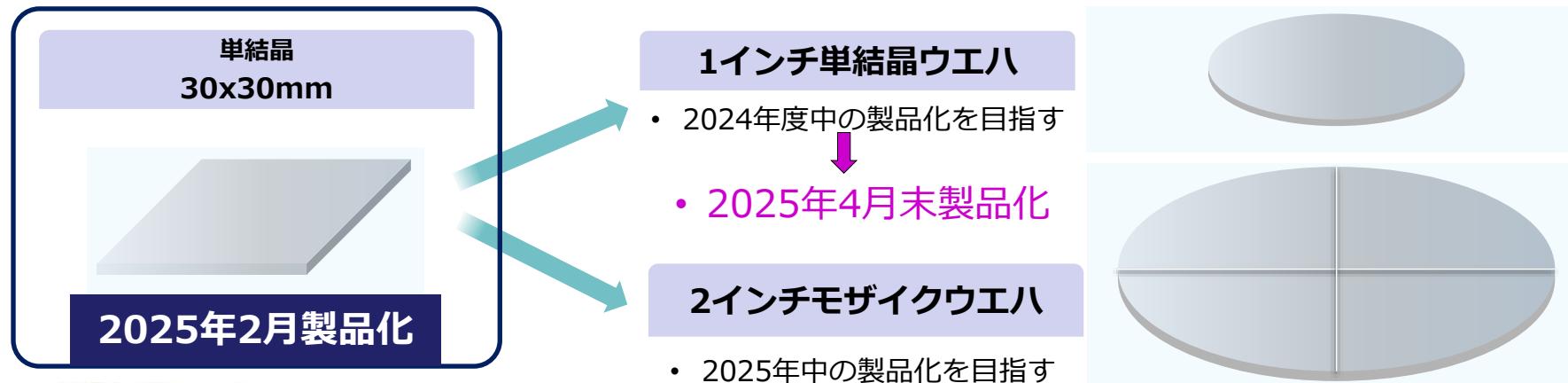
基板・ウエハ開発の経緯と2インチウエハ開発計画

- ▶ 本年2月の30x30mm基板の商品化から、本年4月に1インチウエハも商品化
- ▶ 2インチモザイクウエハの開発も、順調に進行している。

開発、製品化済みの単結晶、モザイク結晶、ウエハ

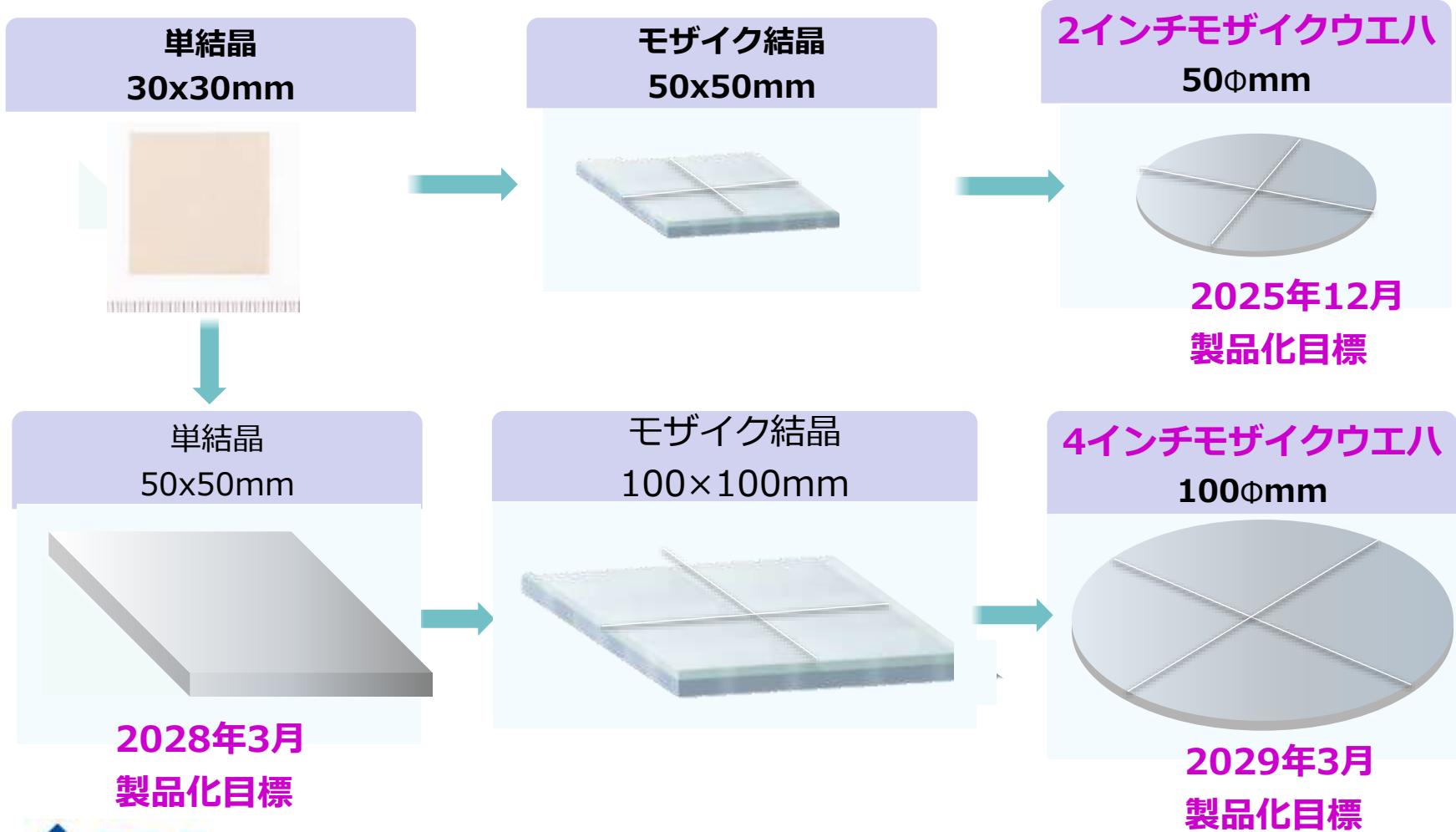


開発中の単結晶、モザイク結晶、ウエハ



4インチウエハへのロードマップ

- 4インチウエハはデバイスプロセスを行うためのキー素材
- 50x50mm単結晶への大型化を達成し、4インチモザイクウエハへ到達する。



EDPグループの今後の進み方

創業の目的： 優れた物性を持つダイヤモンドを様々な分野で利用する

外部環境： LGD市場の拡大 / ダイヤモンドデバイス開発の進展

EDPグループの強み： ①世界最高の技術力 ②大型単結晶保有 ③ダイヤ企業としての知名度

業界No.1を目指して： 新市場創成型ベンチャーとしてリスクに果敢に立ち向かう
リーディングカンパニーとして業界標準確立、ISO取得へ挑む

EDPグループの成長戦略

◆ 宝石市場へ新風を吹き込む

種結晶に加え、
原石や宝石の販売を開始

◆ ダイヤモンドの優れた特性を使う

デバイスや電子部品量産用
ウエハ市場を創成

Appendix

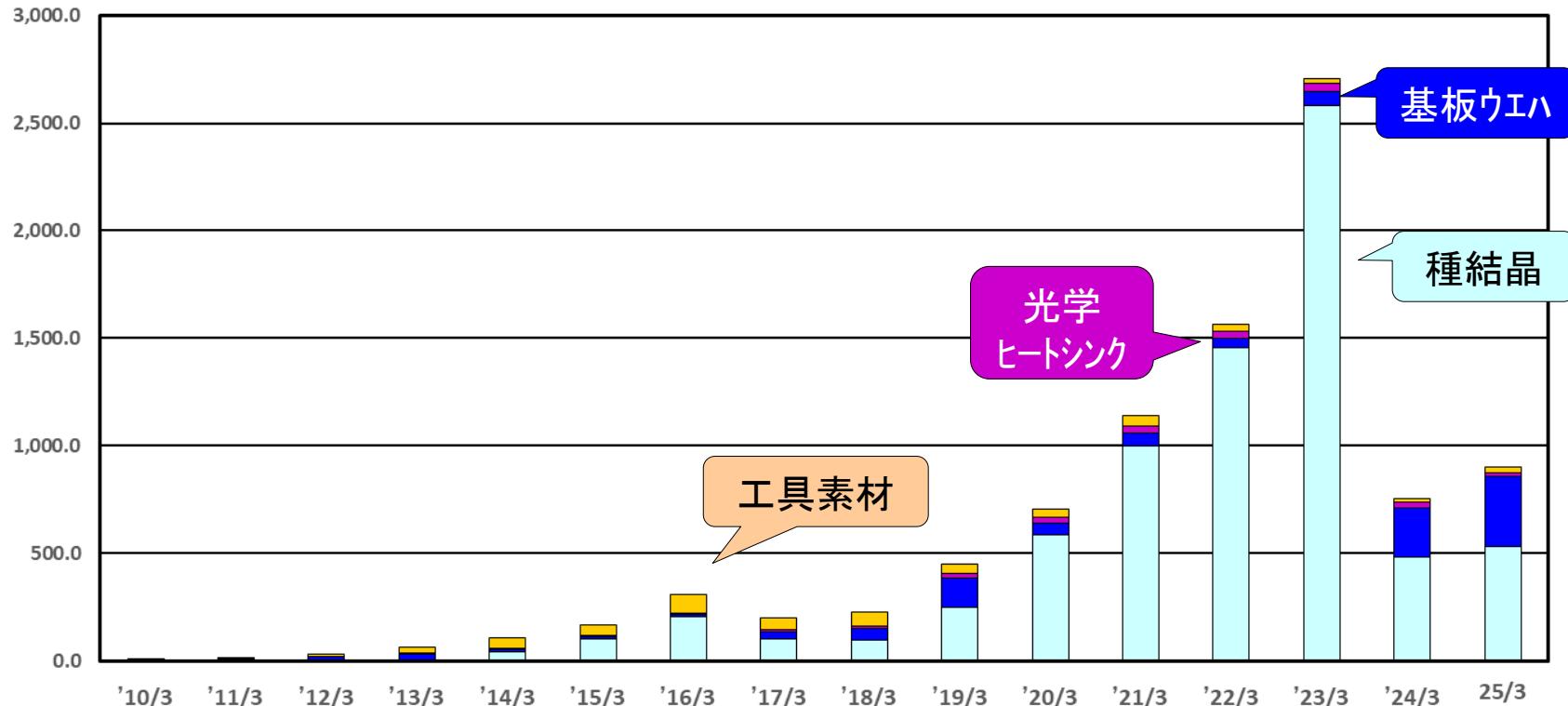
会社概要

社名	株式会社イーディーピー					
代表者	代表取締役社長 藤森 直治		代表取締役副社長 高岸 秀滋			
設立年月	2009年9月8日 産総研発ベンチャー第100号					
本社所在地	大阪府豊中市上新田4丁目6番3号					
グループ会社	エス・エフ・ディー株式会社、SFD India、SFD Antwerp					
工場	横江工場、島工場、開発センター（大阪府茨木市）					
資本金	19億9,079万円（2025年9月30日現在）					
役員構成	代表取締役社長 藤森 直治 代表取締役副社長 高岸 秀滋 常務取締役 林 雅志 社外取締役 光田 好孝 社外取締役 槇 徳子	社外監査役（常勤） 岡田 宗久 社外監査役 大松 信貴 社外監査役 大塚 仁				
事業内容	ダイヤモンド単結晶および関連製品の製造、販売、開発事業					
売上規模	（連結）9億272万円（2025年3月期）					
従業員数	（連結）79人（派遣社員12人を含む）（2025年9月30日現在）					
総資産	（連結）39億971万円（2025年9月30日現在）					
主要取引先	インド、イスラエル、米国、欧州等のLGD製造メーカー、 理科学機器企業、エレクトロニクス関連企業、ダイヤモンド関連VB、 産総研等の国内外の公立研究機関、京大等の国内外の大学					

当社の軌跡

- ・ 産総研で開発した大型単結晶ダイヤモンド技術を実用化する目的で創業
- ・ 2012年から人工宝石用種結晶ビジネスが急速に立ち上がり、成長
- ・ 一方、ダイヤモンドデバイスの進展を見越し基板・ウエハにも積極的に開発投資を実行
- ・ 現在は2023年3月期まで成長をけん引した種結晶ビジネスからの脱却をテーマとする成長戦略に取り組む

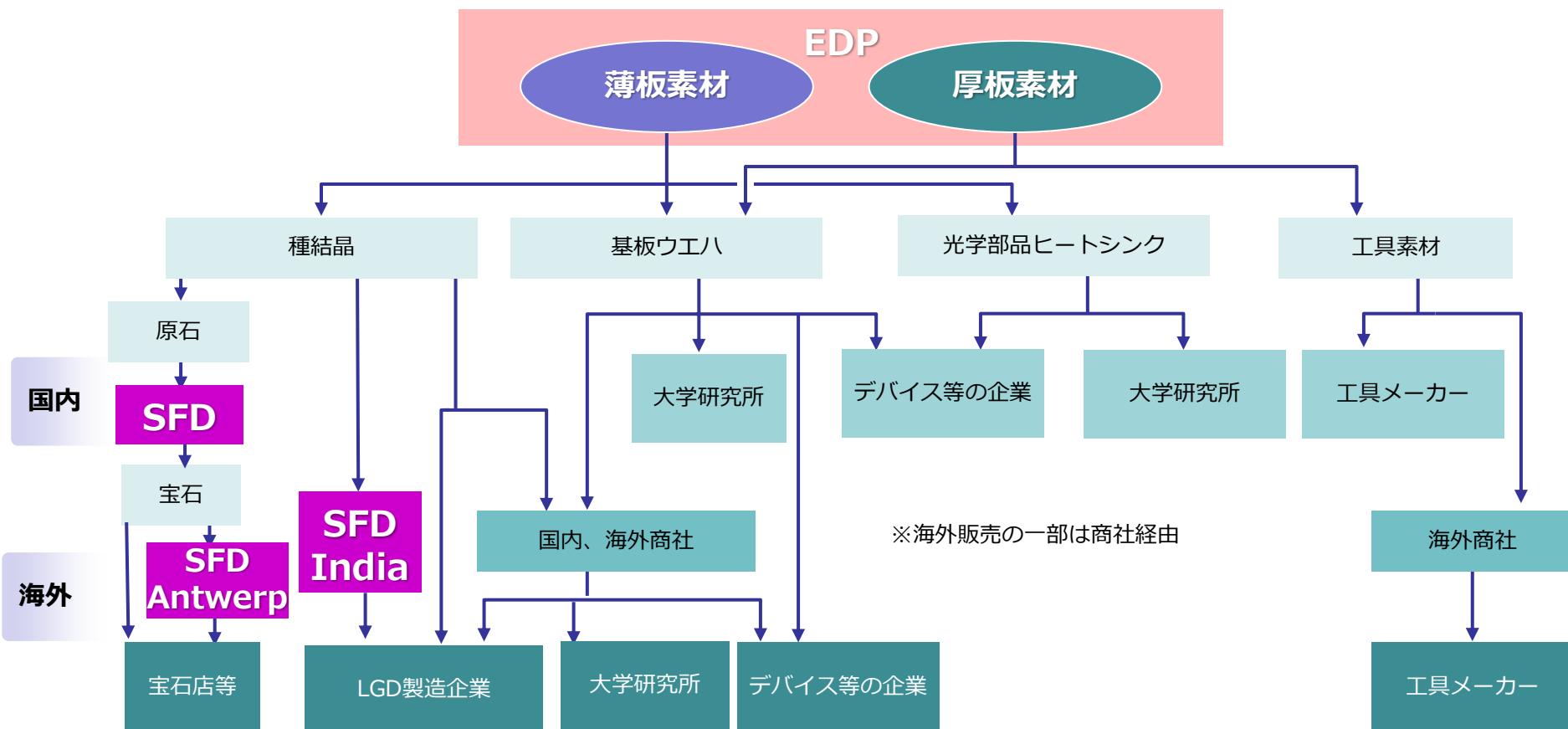
売上高(百万円)



当社の事業フロー

➤ LGD（人工ダイヤモンド宝石）の元となる種結晶をはじめとした主要製品を製造し、LGD製造企業や大学研究所、デバイス等の企業へ販売

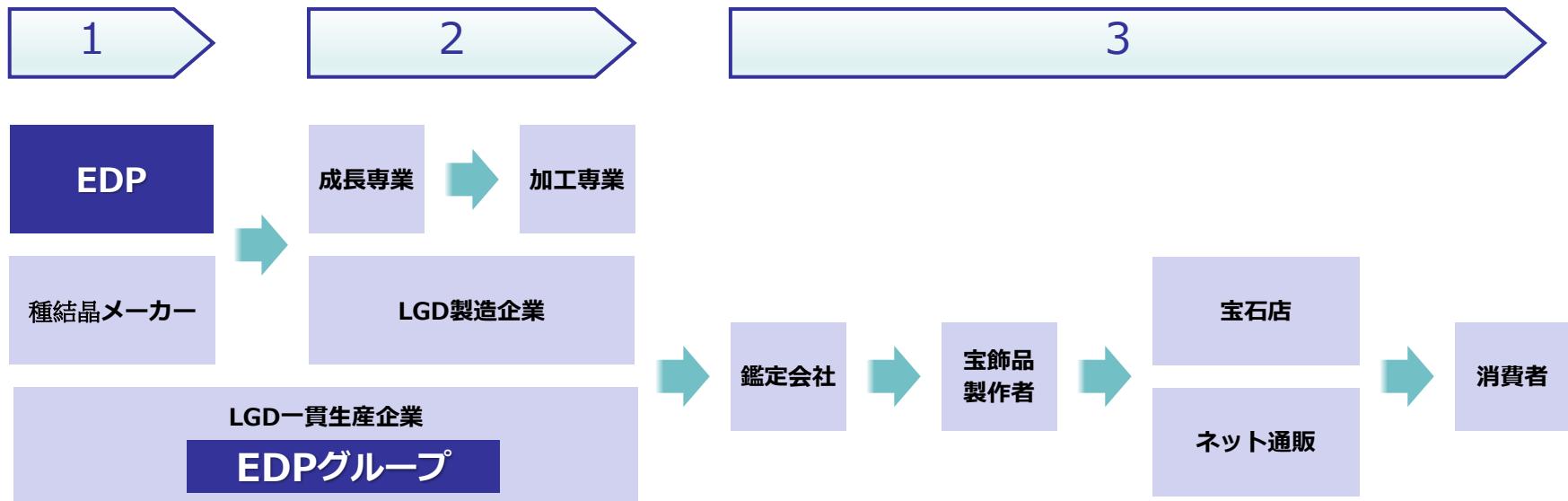
事業フロー



LGD市場のサプライチェーンにおいて 最上流に位置する種結晶の製造販売

当社はLGD（人工ダイヤモンド宝石）市場のサプライチェーンにおいて、最上流のポジションに位置し、種結晶の製造販売を手掛ける

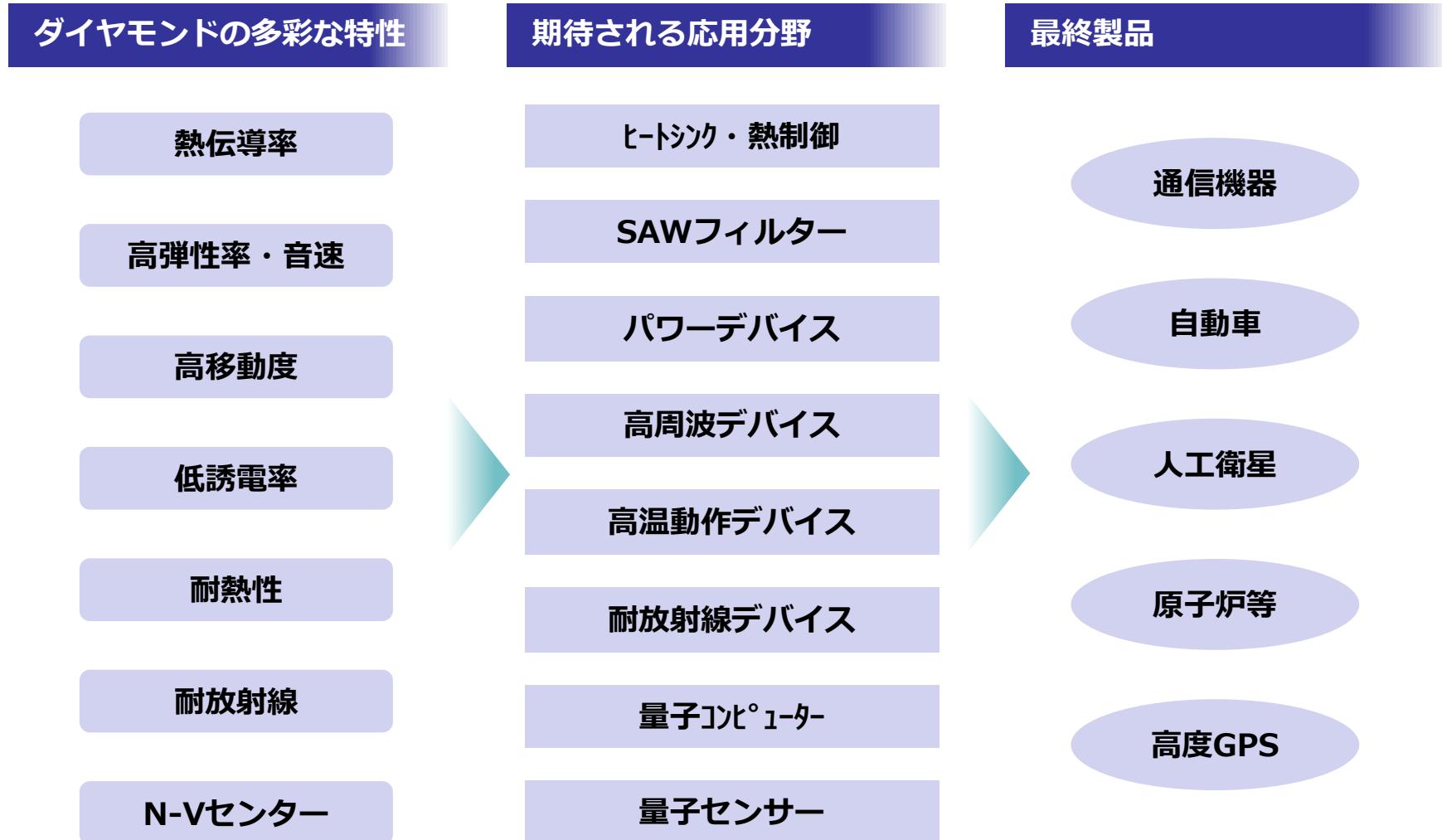
LGD市場のサプライチェーン



- ① 当社はLGDを成長させるための原料である「種結晶」を主要製品として販売
- ② 種結晶を購入したLGD製造企業は、種結晶を成長させて原石を作り、カットと研磨を行い、LGDを製造
- ③ 最終的には宝飾品に加工して、消費者に提供

ダイヤモンドの特性とエレクトロニクス応用

▶ダイヤモンドの優れた物性を生かす様々な応用が検討されている。



ダイヤモンドデバイス開発用ウエハ

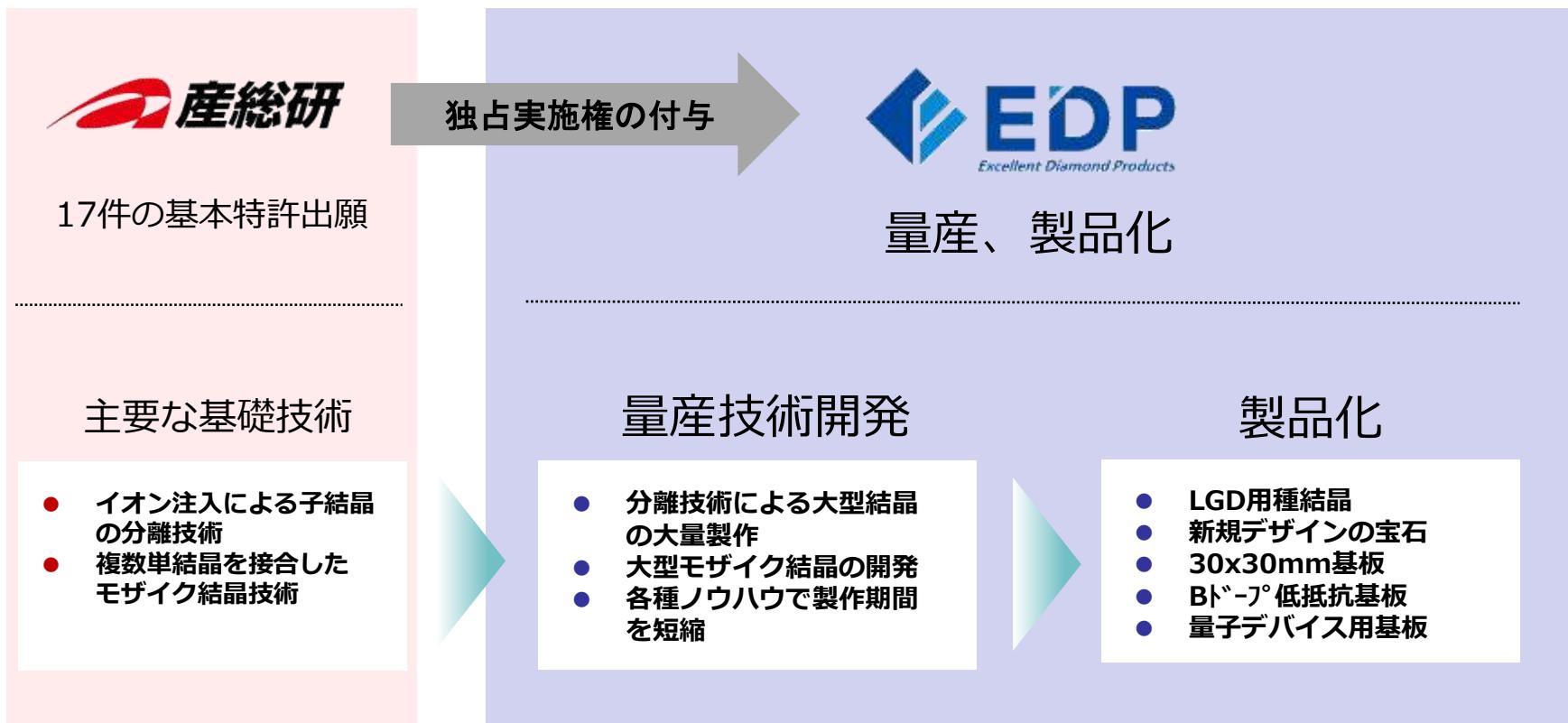
当社は多様な要求に応えるバラエティー豊富な基板、ウエハを実用化して来た

製品名	応用分野	社会への提供価値/最終製品
◆ 小型単結晶基板 ◆ 大型単結晶基板 ◆ オフ角基板	基礎研究用基板	ダイヤモンドデバイス開発の基盤研究である、エピ成長、ドーピング、結晶の高純度化、欠陥制御等の目的に使用する。
◆ 高品質基板 ◆ 低B濃度エピ基板	横型デバイス用基板	信号処理、高周波数デバイス、耐放射線デバイス、センサー等の開発に使用する。
◆ 低抵抗基板 ◆ 高B濃度エピ基板	パワーデバイス用基板	パワーデバイスの開発のため、縦型デバイスを作製するために使用する。大電流動作が必要なEV用デバイスの開発等に使用する。
◆ (111) 基板 ◆ 低N濃度 (111) 基板	量子デバイス用基板	室温で動作する量子コンピューター、量子センサーのデバイス開発に使用する。N-Vセンターを基板に垂直に形成できる。
◆ ミニマルウエハ ◆ モザイク基板	量産テスト用ウエハ	ダイヤモンドデバイスの量産化に向けた準備段階として、小規模の製造実験に使用する。

当社の強み① 世界をリードする大型単結晶

- 分離技術を使って直接薄板単結晶を製作する世界唯一の企業
- 15x15mm単結晶、30x30mmモザイク結晶を実用化
- LGD用種結晶の大量生産を実現

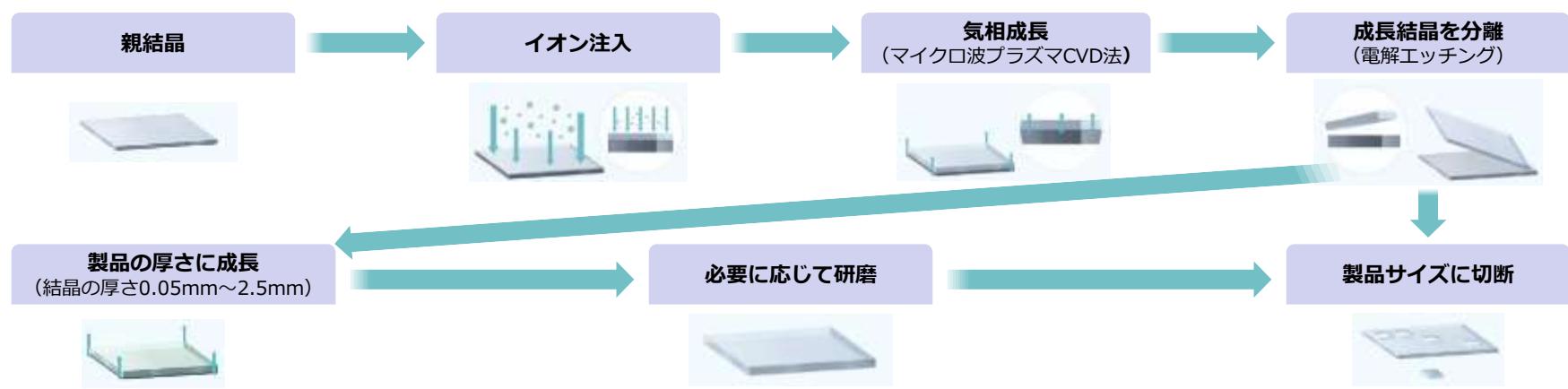
産総研の知財を活用し、量産、製品化



当社の強み② 大量生産可能な製造工程

▶イオン注入を用いた分離技術、単結晶をつなぎ合わせて1枚の大型基板とするモザイク結晶など、独自の製造技術により大型の板状ダイヤモンドの大量生産を実現

単結晶の製造工程



大面積モザイク結晶の製作技術

◆ 単結晶を大型化するため、複数の結晶を横に接合した「モザイク結晶」を開発



当社の強み③ 大型で安価かつ高品質な薄板状ダイヤモンド

- 大型で安価かつ高品質な薄板状のダイヤモンドを提供
- 様々な用途で使いやすく高品質、板状で大型の単結晶を大量生産

当社製品の特長

① 世界最大級の大型単結晶を保有している

② 板状の形態で結晶を製造、製品製作で低コストを実現

③ 広い範囲の板厚の製品を実用化

0.03~3mmまで最大100倍の板厚が異なる製品を製造

④ 高純度かつオフ角の揃った結晶

⑤ 大面積研磨技術を持っており、
用途に合わせて2種類の粗さで研磨可能

